

特 許 協 力 条 約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 18 NOV 2004

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 31584-P02324	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/15568	国際出願日 (日.月.年) 04.12.2003	優先日 (日.月.年) 13.12.2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl7 B25J15/04, H05K13/04		
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社		

<p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）</p> <p><input type="checkbox"/> 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）</p>	
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p>	

国際予備審査の請求書を受理した日 30.04.2004	国際予備審査報告を作成した日 28.10.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 所村 美和	3C 9617
電話番号 03-3581-1101 内線 3324		

様式PCT/IPEA/409. (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☐ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1、2には、ツール交換装置が記載されており、請求の範囲3は、ツールが記載されている。

請求の範囲1、2における技術的特徴は、ツールを交換するための装置の構成であり、どのようなツールに対する交換装置であるのかの記載はなされておらず、一方、請求の範囲3における技術的特徴は、電子部品実装装置におけるツール自体の構成であって、請求の範囲1、2に記載されているツール交換装置と共に用いられる専用ツールであるとも、ツール交換装置を使用するのに適したツールであるとも、記載されていない。

したがって、請求の範囲1、2の事項と請求の範囲3の事項との関連性は認められず、PCT規則13.2の第2文の意味において特別な技術的特徴と考えられる共通の事項は存在しないので、それらの相違する発明の間にPCT規則13の意味における技術的な関連を見いだすことはできない。

よって、請求の範囲1-3は発明の単一性の要件を満たしていないことがあきらかである。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	2	有
	請求の範囲	1, 3	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1; 日本国実用新案登録出願2-18357号 (日本国実用新案登録出願公開3-109784号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (山形カシオ株式会社) 1991.11.11, 第5-6頁, 第11-15頁, 第5-8図 (ファミリーなし)

文献2; 日本国実用新案登録出願54-110483号 (日本国実用新案登録出願公開56-28894号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (株式会社不二越) 1981.08.13, 第5-6頁, 第9-10頁, 第3-5図 (ファミリーなし)

文献3; JP 2000-24975 A (工業技術院長) 2000.01.25, 【0017】-【0019】, 図2-6 (ファミリーなし)

<請求の範囲1>

請求の範囲1に係る発明は、文献1と文献2とにより進歩性を有しない。

前提構成については文献1に記載されており、文献1における全吸着ノズル3 (「ツール」に相当) を直接、載せて置くことにより保持する「支持台4」は、請求の範囲1に係る発明における「保持部11」に、文献1における全吸着ノズル本体に設けられている「係合溝3a2」は、請求の範囲1に係る発明における「段部」に相当する。

3点支持により把持を行う構成、及び係合部材を係合位置と退避位置との間で移動させる移動手段については文献2に記載されている。

ここで、文献1の係合溝の断面形状をL字状とする点については、構成具体化の際の設計上の微差にすぎない。

<請求の範囲3>

請求の範囲3に係る発明は、文献1と文献3とにより進歩性を有しない。

文献1の係合溝の断面形状をL字状とする点については、構成具体化の際の設計上の微差にすぎない。また係合部を、直径方向に対向し互いに平行するように設ける構成は、文献3に記載されている。

なお、請求の範囲3の記載のツール形状について、作用部の構成が明確ではないことから、答弁書で主張されているような、断面L字状の段部よりもツールの径方向外方に延出する部材が無いものに限定されているとは認められない。

<請求の範囲2>

請求の範囲2に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。